

Rakuno Gakuen University

酪農学園大学

Vol. 142 夏号



聖句

求めなさい。そうすれば、与えられる。
探しなさい。そうすれば、見つかる。
門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。
だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。

マタイによる福音書 7章7～8節

Green Stage ～酪農大オリジナル製品をPRする食と健康学類 1年生～



めざす姿と2020年に向けた経営改革について

学校法人酪農学園 三愛精神に基づく健土健民戦略本部

1. 酪農学園のめざす姿

2013年に酪農学園が創立80周年を迎えるにあたり、創立100年に向けて本学園が何を目指していくのかを明らかにした「酪農学園のめざす姿」(以下、「めざす姿」)が、同年1月の理事会にて承認され、3年半が経過しました。

このめざす姿の策定の背景には、①18歳(15歳)人口減少に伴う学校存続の危機感、②めまぐるしい環境変化への積極的な対応、③学園関係者の共通理解での改革の推進、がありました。学園の持続的な発展を目指すとともに、危機感から策定に至ったもので、本学園として初めての取り組みでした。

企業や行政においては、かねてより短期、中期的スパンでの経営計画やまちづくり総合計画等を立て、戦略的、計画的な経営が進められていることを考えますと、ようやく本学園もスタート地点に立った感がします。大学というカテゴリーで見れば、国公立大学においては、法令によって中期目標、中期計画の策定が義務化されていますが、それもそう古い話ではありません。一方、私立大学においては、法令上の規定はなく、個々の判断に委ねられているのが現状です。少し前のデータになりますが、私学高等教育研究所が行った調査によりますと、中長期計画を策定している私立大学の割合は、2006年には25%、2009年には55%、2011年には59%と、年々増加傾向にあるという結果が出ています。この背景として、国公立大学での策定や補助金採択での条件化も挙げられていますが、根本的には厳しい環境と競争の激化の中で、私立大学にとって、明確な目標と政策に基づくマネジメントなしに改革推進が困難になってきたからではないか、と分析されています。

また、めざす姿に掲げられた施策を具現化するために、分野(教育、研究、キャンパス環境など)ごとに取組項目を設定し、具体的な内容やスケジュール化したのがアクションプランで、毎年、各部署と進捗状況などについての情報交換の場を設け、取組みを進めています。

2. 経営計画策定の背景

このような中、2015年5月の理事会において、「2020年に向けた経営改革～生き残る酪農学園に向けて～」(以下、「経営計画」)が承認されました。これは、学園全体を経営、大学、高校の3つの部門ごとに、それぞれ数値目標を掲げ、それに向けた課題と取組みを整理した短期計画と位置付けしています。したがって、アクションプランのうち、経営計画の内容に合致し2020年までの早期に取り組むものを経営計画として実行していくものです。

この策定の背景には、激変する外部環境の1つとして18歳人口がここ数年間ほぼ横ばいで推移していたものが、2018年から減少傾向となり、2020年を境に大きな減少に転じるということが挙げられます。過去20年においては、これ以上の大きな減少はあったものの、進学率の上昇に支えられてきたという経緯があります。したがって、進学率が頭打ちとなり、大学数も増え続けてきた今日において、今後も受験生等から支持され続ける学園の礎を改めて早急に築き上げるため、アクションプランで位置付ける取組みを具体化して、選択と集中による推進を図っていくとするものです。

日本私立学校振興・共済事業団調査によれば、2015年度には、全国の私立大学579校のうち43.2%にあたる250校が入学定員割れとなっており、その多くが入学定員1,000名未満の大学に集中しているという結果になっています。本学の場合、入学定員700名に対し、2015年度は791名、今年度は825名の入学者数と、定員を確保していますが、将来的には予断を許さない状況にあります。さらに、高等学校への進学年齢である15歳人口は、それよりも3年早くそのような状況が訪れます。とわの森三愛高校は、所在地である江別市内の生徒はもちろんのこと、近郊の札幌市、石狩管内、空知管内、そして道内外からも生徒を受け入れている地域的には幅の広い学校ですが、ボリュームゾーンである江別市内の15歳人口がここ10年間で約半減すると、統計資料では予測されています。札幌市、江別市の私立高校22校のデータを見ますと、2016年度入学者の状況は、16校が入学定員割れで、さらに全道を見ると54校のうち8割を超える45校が定員割れの結果となっています。

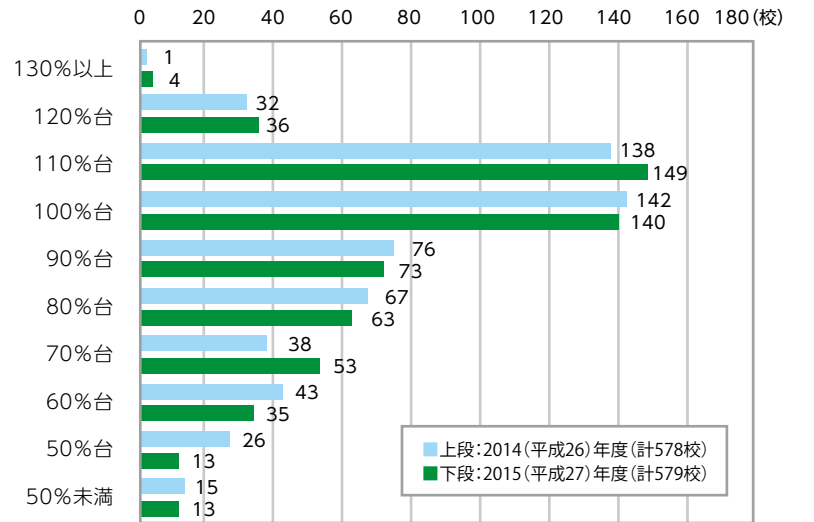
このような将来人口の動向を見越した厳しい状況は、特に学校に限ったことではなく、企業や行政等においても同様であり、すでに何かしらの対策、戦略が立てられ、様々な対応情報が席卷しています。

18歳人口推移と予測

	1992年 (平成4年)	205万人
	...	
2002	H14	150
	...	
2012	H24	119
	...	
2016	H28	119
2017	H29	120
2018	H30	118
2019	H31	117
2020	H32	117
2021	H33	114
2022	H34	112
	...	
2026	H38	107
	...	
2030	H42	101
2031	H43	99

(出典:総務省、国立社会保障人口問題研究所)

入学定員充足率の分布(私立大学)



(出典:日本私立学校振興・共済事業団調べ)

3. 経営計画の概要

経営計画の概要を述べてまいります。第1に、学園全体の経営目標・方針は、生徒・学生の学びを支える経営基盤の整備として、人件費比率46%以下、教育研究経費比率35%以下、管理経費比率10%以下、基本金組入前当年度収支差額7億円以上と設定しています。その数値目標を達成するための経営課題として、i)バランスのとれた財政基盤の確立、ii)ガバナンス体制の確立に向けた組織機能の整備、iii)高大一貫教育の整備、iv)学園ブランドの確立を掲げ、これらの取組みにより学園の維持・発展を目指してまいります。

第2に、大学の教学目標・方針は、入学定員(700名)の1.2倍の入学者数確保、受験者数4,000名以上の安定的な確保、明確なポリシーに基づく教育体制の確立、大学満足度の向上と設定しています。そのための教学課題として、i)入試戦略は安定した受験者数の確保と質の高い学生及びアドミッションポリシー(入学者受入の方針)に基づいた学生の受入、ii)教育改革はカリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)、ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与の方針)の明確化とそのポリシーに基づき創意工夫・系統化された教育課程の提供と実践、iii)学生支援は学生の生活満足度向上のために必要な支援、サービス、教育環境の改善・充実、iv)キャリア教育は学生の多様な進路、就職先への支援強化と就職満足度の向上、v)教育・研究支援は教育の質の向上、研究成果の増加を図るための全学的体制の確立、vi)改組は社会のニーズに応え、各学群・学類・研究科の特色を活かした改組の検討と効果的な大学運営のための組織体制の整備を掲げ、これらの取組みにより、質の高い特色ある教育課程の実践を目指します。

第3に、高校の教学目標・方針は、志願者数1,300名以上、入学者数250名以上、学内大学進学者数50名以上、進路実現に向けての確実な学習・活動の取組みによる高い満足度の実現と設定しています。そのための教学課題として、i)入試広報戦略の確立、ii)コースの検証と再編、iii)教育カリキュラムの構築、iv)人員配置計画の策定を掲げ、これらの取組みにより、高大一貫を軸に、生きる力と社会に貢献する力を育て、進化する学校を目指します。以上の項目を具現化するために、より具体的な取組みとして何をすべきかについて、各部署と協議を続けています。

4. 最後に

今からそう遠くない過去において、学校機関では経営は学校法人の仕事、教育研究は大学の仕事とする経営教学の分離という考え方が一般的であったようです。学校外部の方からすると理解しにくいことかも知れませんが、近年は厳しい環境変化も相まって融合化が進みつつあり、本学園においても、経営組織と教学組織が酪農学園の発展という1つの目標に向かって少しずつ進んでいます。しかしながら、経営計画の個々の取組みを進めていくうえでは、簡単には進まない項目や目標達成が困難な状況も出てきようかと思えます。また、各論で関係者の意見がぶつかる場面も多々予想されるところです。学園の経営改革は緒に就いたばかりで、課題も少なくありませんが、学園関係者の皆様のご協力を賜りながら「学生のため、社会のために支持され続ける学校」に向けて、教職員一体となり進めてまいります。



2 015年度学位記授与式

2015年度学位記授与式が3月18日、本学体育館にて行われ、父母や教職員が見守る中、774名(大学745名、大学院29名)が学び舎を巣立ちました。

竹花一成学長より、学類、学科、修士・博士課程の総代に学位記を授与し、「この大学で成長し、社会に出て行く皆さんに、チャレンジすることを願っています。どうかこの国の食料の自給、また世界の貧しさを癒やすために自分の場所で努力してください」と式辞を述べました。卒業生を代表して、食と健康学類の吉村茉佑さん(応用微生物学研究室)と獣医学科の松倉大樹さん(動物生殖学ユニット)が、本学で学んだ喜びやこれからの決意を述べました。式の後は学類・学科ごとに分かれ、一人ひとりに学位記が授与されました。



2 016年度入学式 877名を迎え新たなスタート

2016年度の入学式が4月6日、本学体育館にて行われ、新入生877名(循環農学類299名、食と健康学類171名、環境共生学類142名、獣医学類149名、獣医保健看護学類64名、大学院29名、編入23名)を迎えました。

竹花一成学長は式辞の中で、「大学は何といっても『出会いの場』で、大学時代は本当の友人をつくるチャンスとも言えます。是非この大学で、人との出会いの強さを知ってください。私自身、人生を形づくるものは他者との出会いに他ならないと思っています。出会いは会話によって、より深いものになります」と述べました。



三 枝俊哉教授が 2016年度日本草地学会賞を受賞



循環農学類の三枝俊哉教授(草地・飼料生産学研究室)が、2016年度日本草地学会賞(斉藤賞)を受賞しました。

受賞対象は、「寒地型放牧草地の養分循環に基づく持続的維持管理に関する研究」です。三枝教授はおよそ11年をかけて、草種特性に応じた維持管理法を示すとともに、道内3カ所の放牧草地の養分含量や施肥量などを調査し、養分循環を考慮して養分

収支を算出した結果、道内の放牧草地への施肥適量は、地域や草種、土壌に関わらず、ほぼ一定の範囲に集約できることを突き止めました。この研究により、北海道の放牧草地における施肥標準は、施肥量が大幅に低減され、草種・地域・土壌といった区分も簡素化する方向へと、抜本的に見直されました。こうした成果が、放牧による乳肉生産を展開する上で極めて重要な意義を持ち、日本における草地農業の発展に大きく寄与するものとして、高く評価されました。

本 学と洞爺湖町との連携が 日本計画行政学会「第16回計画賞」 優秀賞を受賞



2月26日に東京都で開催された、日本計画行政学会第16回計画賞の最終審査会・表彰式において、環境共生学類の押谷一教授(資源再利用学研究室)と吉田磨准教授(環境地球化学研究室)が応募した「洞爺湖町における酪農学園大学の自然環境保全に関する活動」が優秀賞を受賞しました。

本学と洞爺湖町は2009年に地域総合交流協定を締結し、旧生命環境学科や環境共生学類を中心に、教員や学生が洞爺湖町においてさまざまな教育研究活動を行ってきました。町で廃校となった旧成香小学校を譲り受けて拠点とし、新入生オリエンテーションやフィールド実習、卒業論文・修士論文のための調査などに活用すると同時に、教員や学生が町の行事や地域の活動に積極的に参加しています。学生教育が地域の発展に寄与していること、学生が卒業後に洞爺湖町に就職し、大学と地域間連携の継続性を担保していることなどが高く評価されました。

環境ホルモン学会研究発表会で 大谷尚子さんが優秀賞を受賞

12月10・11日に栃木県で開催された「第18回環境ホルモン学会研究発表会」において、本学大学院・獣医学研究科博士課程3年(当時)の大谷尚子さん(獣医生化学研究室・岩野英知准教授(当時))がポスター発表した「BisphenolF (BPF) の次世代影響メカニズムの解明」が、優秀賞を受賞しました。

身の回りの多くのプラスチック製品に樹脂原料として使用されている環境ホルモンである化学物質BPFが、次世代にどのような影響を及ぼすのかを、マウスを使って調べました。妊娠中にBPFを経口投与したマウスの子供が10週齢に達した時の不安様行動やうつ様行動を調査した結果、ビスフェノールA (BPA) を投与した次世代マウスよりも、さらに強く影響が現れることを明らかにしました。



本生態学会大会で 金子命さんが優秀賞を受賞



3月20日～24日に宮城県で開催された「第63回日本生態学会大会」において、本学大学院・酪農学研究科修士課程2年(当時)の金子命さん(生態系物質循環研究室・保原達准教授)がポスター発表した「森林生態系における埋没腐植土の地化学的・微生物学的特性」が、優秀賞を受賞しました。

埋没腐植土とは、火山性地層において、かつて地表だった土壌が火山噴火で火山灰層の下に埋もれ、黒色の層を形成している部分です。金子さんはその特殊な層に着目し、苫小牧市の植苗地区や北大研究林の、およそ1万年前の埋没腐植土層3カ所からサンプリングを行い、蓄積された炭素量などを測定し、埋没腐植土壌中のアルミニウム量と炭素量の関係や、微生物の群集構造などを明らかにしました。

本森林学会大会で河上智也さんがポスター賞を受賞

3月27日～30日に神奈川県で開催された「第127回日本森林学会大会」において、環境共生学類4年(当時)の河上智也さん(生態系物質循環研究室・保原達准教授)がポスター発表した「土壌の有機物吸着性は土壌炭素蓄積量に違いをもたらすか？」がポスター賞を受賞しました。

落ち葉などの土壌有機物がどのように微生物に分解されて変換され、安定して土壌に炭素として保持されるのか、3種類の培地土壌を使って、有機物源としてグルコースをそれらに与え、濃度と土壌炭素濃度の変化を追跡するとともに、土壌中の微生物由来のアミノ酸量と炭素量の測定を行い、そのメカニズムを明らかにしました。



フィールド情報学研究室の研究が 「さっぽろ環境賞」奨励賞を受賞



環境共生学類・フィールド情報学研究室(森夏節教授)の4年生(当時)、坂口大河さん、佐々木翔吾さん、雨池千里さんの3名が共同で取り組んだ研究「札幌市における植樹帯および植樹柵

のデジタルデータ化と環境評価」が、札幌市が主催する「第7回さっぽろ環境賞」において、環境保全・創造部門の奨励賞を受賞しました。

2015年7月中旬から8月末にかけて、札幌市中央区内の花壇として利用されている2,169カ所の植樹帯と植樹柵を実地調査し、面積や位置、花の種類・色・本数などのデータをGISを用いて地図上に記録するとともに、景観という観点から環境評価を行いました。

本獣医内科学アカデミー学術大会で 石川健吾さん・増田麻子さんが受賞



2月19日～21日に神奈川県で開催された「第12回日本獣医内科学アカデミー学術大会」において、獣医保健看護学類4年(当時)の石川健吾さん(動物集中管理研究室・佐野忠士准教授)が臨床研究アワードを、同4年(当時)の増田麻子さん(同研究室)が看護アワードを受賞しました。

石川さんはうさぎの糞便と被毛、血液を採取してストレス関連物質の値を測定し、販売個体や疾病個体は、一般飼育の個体と比べてストレス関連物質の値が高いことなどを明らかにしました。増田さんは引退した盲導犬の活動量を測るとともに、血液と被毛からストレス関連物質の測定を行い、活動量が多い飼育環境にある盲導犬は、ストレス関連物質の値が低いことを明らかにしました。



道

総研と連携・協力に関する協定締結

本学と地方独立行政法人北海道立総合研究機構は、これまでも農業や食、環境の分野で共同研究などで連携してきましたが、双方が有する研究シーズや人材などの研究資源を有効活用して、教育や研究のさらなる充実を図るため、1月29日に協定を締結しました。



道総研の丹保憲仁理事長と竹花一成学長

2

2016年度より 「食Pro.(食の6次産業化プロデューサー)」 育成プログラムを導入

農業や食の分野の教育研究を行い、また、自家産の農畜産物を活用した加工品の製造やレストラン経営などに取り組む卒業生を数多く輩出している本学では、食の6次産業化(生産×加工×流通・販売・サービス)に携わる人材養成を進めることとし、一般社団法人食農共創プロデューサーズの認証(2016年5月に取得)を受けて、2016年度の入学生から食Pro.育成プログラムを導入することとしました。

循環農学類、食と健康学類の学生のうち、レベル1については1年生のうち希望する学生を対象とし、循環農学概論、食と健康学概論、健土健民入門実習の単位を修得し、卸売市場見学に参加した学生に修了証を発行します。今年度は73名の学生が登録しました。レベル2、3については来年度以降の実施になりますが、2～4年生を対象とし、人数制限をした上で、要件を満たした学生に修了証を発行します。

※参考:「食Pro.(食の6次産業化プロデューサー)」について

内閣府の国家戦略(実践キャリア・アップ戦略、キャリア段位制度)の一つで、食の6次産業化(生産×加工×流通・販売・サービス)を担う人材の育成を目的としたものであり、食分野で新たなビジネスを創出するための職能レベルを6段階で認定するもの。農業高校等のレベル1からトッププロレベルの6まで6段階でレベル認定される。



レベルごとの人材イメージ

サ

バ大学との連携協定を拡大

2月8日、マレーシア・サバ大学のザキ・アズミ理事長と、同大学熱帯生物多様性保全研究所のチャールズ・バイラパン所長が、本学園の麻田信二



理事長と竹花一成学長を表敬訪問し、「酪農学園との協定を改訂し、環境分野以外にも交流範囲を広げ、学生交流を活発にしたい」と提案しました。

これを受けて、4月13日、本学の竹花一成学長とマレーシア・サバ大学のモハメド・ハルン・アブドラ学長は、2011年に締結した学術交流協定を農学や獣医学など双方の大学全体に拡大した協定にしようと、本学の会議室で協定調印書にサインしました。

天

売猫の譲渡会を開催

絶滅危惧種の海鳥などが生息し「海鳥の楽園」といわれる羽幌町の天売島では、飼い主のいない野生化した野良猫が増え続け、海鳥を襲うなど生態系に影響を及ぼすとして問題になっています。こうしたことから、羽幌町と環境省は、北海道獣医師会や本学学生を含む動物愛護ボランティア団体などと連携して「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会を発足し、捕獲した野良猫を殺処分することなく里親を探す取り組みを行っています。捕獲された猫は、北海道獣医師会が病気のケアをしたあと、ボランティアらに引き渡されます。

獣医保健看護学類の動物行動生態研究室(郡山尚紀准教授)では、研究の一環として、捕獲された天売猫を学生たちが自宅で預かり、馴化(人に馴れさせること)してから里親に引き渡す「天売猫の譲渡会」を4月3日、5月15日に開催しています。2015年9月に天売猫を預かって以来、これまで馴化した猫は10匹で、その内、6匹が里親に引き取られました。

譲渡会では、学生が猫の特徴や馴化レベルを表示したプロフィールを作成し、来場者の質問に対応しています。今後も定期的に開催する予定です。



ROHの紹介と投稿のご案内

酪農学園大学大学院委員会(獣医学研究科と酪農学研究科の統一上部組織)では、持続可能な食料生産に関わる農学、食品科学、環境学、動物科学の分野の研究論文を掲載するオンライン科学雑誌「Research of One Health (ROH)」を発行しています。近年、人、動物、環境(生態系)の健康は相互に深く関連しているという考え方(One Health)が広がっていますが、これは本学園の建学の精神(健土健民)と一致した考え方であることから、ROHを雑誌のタイトルとしました。研究者はもちろん、本学卒業生や関係者にも広く投稿を呼びかけています。学位取得を考えておられる方は、学位申請資格のうちの必要な業績に換算されます。

ROH論文や投稿規定はホームページ(<http://gra.rakuno.ac.jp/roh.html>)でご覧ください。最近の掲載論文のタイトルは右のとおりです。ROHを基盤にして相互理解が深まり、本学園関係者の研究推進が図られることが期待されます。

【2015年10月】

国内に広がる豚流行性下痢・PED による養豚農家・法人経営への影響分析

市川 治(Osamu Ichikawa)

栽植密度に対するダイズ品種の収量安定性に及ぼす茎伸育性の影響

義平 大樹(Taiki Yoshihira)

酪農学園における通信制農業教育の歴史と継続高等教育への展望

十倉 宏(Hiroshi Tokura)

【2016年3月】

大豆食品の健康増進行動と消費者行動の実証分析

加藤 敏文(Toshifumi Kato)

Simultaneous Determination of the Neurotransmitters and Free Amino Acids in Rat Organs by LC-MS Analysis

前田 尚之(Naoyuki Maeda)

【2016年6月】

Parasitic nematodes obtained from marsupials reared at a semi-free ranging facility in a Japanese zoological park

外平 友佳理(Yukari Sotohira)

2015年度 課外活動表彰(第1・第2回)・学長特別表彰式

2015年度の学生生活援護会「第1回課外活動表彰式」ならびに「学長特別表彰式」が、12月1日に、「第2回課外活動表彰式」ならびに「学長特別表彰式」が、3月17日に行われ、竹花一成学長から表彰状と報奨金が贈られました。

2015年度 第1回課外活動表彰対象者

ソフトテニス部	第47回春季北海道学生ソフトテニス大会 第47回春季北海道大学対抗リーグ	優勝(男子 3部リーグ) 2部昇格(男子)
硬式テニス部	第48回北海道学生テニスリーグ(女子)	3部昇格
男子バスケットボール部	第67回北海道大学バスケットボール選手権大会	優勝(2部)
剣道部	第42回北海道女子学生剣道選手権大会	第2位 西川 愛希さん
アーチェリー部	北海道学生アーチェリー第44回男子王座決定戦	男子RC個人 第2位 内山 心夢さん
少林寺拳法部	少林寺拳法第46回北海道学生大会	自由単独選手初段の部 第3位 高橋 宏充さん
弓道部	第68回北海道弓道大会 平成27年度北海道体育大会弓道競技の部 第62回全道学生弓道選手権大会 "	大学生男子の部 第2位 小畑 徹広さん 成年男子の部 優勝 西 雄大さん 準優勝 西 雄大さん 男子団体 第3位 男子団体 第3位
肉牛研究会	「氷柱」(545kg)の出荷 「冬月」(538kg)の出荷	枝肉格付A-5 BMS No.12 枝肉格付A-5 BMS No.11

2015年度 第1回学長特別表彰対象者

第14回全日本ホルスタイン共進会北海道大会 第2部ホルスタイン種 第17回ジャージー種	優等賞1席 優等賞2席	酪農学園大学 出品管理班(立石 奈恵さん 他15名)
第43回毎日農業記録賞	優良賞	井上 絵里加さん
第36回牛乳・乳製品利用料理コンクール	優良賞	鈴木 おゆ美さん

2015年度 第2回課外活動表彰対象者

ハンドボール部	第47回北海道学生ハンドボール秋季リーグ戦(男子)	3部昇格		
アーチェリー部	2015年度第39回北海道学生アーチェリー秋季インドア大会	男子RC個人	第2位	星野 湧介さん
硬式テニス部	平成27年度北海道学生選抜室内テニス選手権大会			
	女子ダブルスの部	第3位	小山 由美さん	雨尾 涼音さん
	女子シングルの部	第3位	小山 由美さん	

2015年度 第2回学長特別表彰対象者

日本農業技術検定 1級合格	高橋 勇貴さん
---------------	---------

第30回(2015年度)管理栄養士国家試験結果

	受験者数	合格者数	合格率
本学	36名	35名	97.2%
全国	19,086名	8,538名	44.7%

第67回(2015年度)獣医師国家試験結果

	受験者数	合格者数	合格率
本学	146名	125名	85.6%
全国	1,299名	1,024名	78.8%



第1回表彰式



第2回表彰式



2015年度 卒業式

2月27日午前10時より、本校礼拝堂にて2015年度卒業証書授与式が行われました。卒業生240名は、多くの在校生・保護者が見守る中、卒業証書を受け取り、3年間学びを深めたとの森三愛高校を巣立ちました。



3月8日には、通信制課程の卒業式が行われ、23名の生徒に卒業証書が手渡されました。

☆今年度の主な進路結果は、以下の通りです(過年度卒などを含む合格者数。4月1日現在)。

■国公立大学9名

北海道教育大学・小樽商科大学・北見工業大学・名寄市立大学・金沢大学・信州大学・琉球大学

■私立大学・短期大学163名

酪農学園大学・早稲田大学・法政大学・中央大学・立教大学・明治大学・同志社大学・立命館大学・東京理科大学・明治学院大学・北里大学・日本体育大学・東京農業大学・北海学園大学・北星学園大学など

■専門学校64名、就職30名

2016年度 入学式

4月7日、本校礼拝堂にて第26回入学式が行われました。267名の新入生が、緊張の面持ちで入学し、担任による新入生点呼の後、榮忍校長から入学許可宣言がされました。榮校長から「過去は変えられない。将来を思い描くことはできるが、実現できるかどうかは、今このときの歩みの積み重ねの結果です。わたしたちが生きられるのは、「今」しかないのです。だからこそ、変えられない過去に真摯に学び、希望を持って未来を思い描き、今を真剣に生きることが重要です」と語り、これから始まる3年間の高校生活にエールを贈りました。



4月16日には通信制課程の入学式が行われ、新入生16名が新たなスタートを切りました。

機農コース 欧州酪農研修旅行

機農コース3年生(当時2年生)は、3月12日～21日の日程で、31回目となる欧州酪農研修旅行に行ってきました。



デンマークでは、ロスキレ

食肉技術学校で、農業における「土」の重要性が語られました。三愛精神や健土健民の理念、循環農法に通じるものであり、生徒たちは講義に聞き入っていました。また、有機農法による牛乳の生産・販売をする酪農家、チーズなどの乳製品の製造、農家レストランを営む有機農場を見学しました。

ドイツでは、高等農業学校で土壌調査を行い、現地学生と慣れないドイツ語で話をしながら、交流を図りました。また、農家レストラン見学では、自分たちの生産物にどのような付加価値をつけてブランディングするかの話聞くことができました。

イギリスでは大英博物館などを見学し、歴史を学び、実際に肌で感じる貴重な経験ができました。この旅行に携わっていただいた関係者の方々、保護者の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

第9回 カナダ研修旅行

1月5日～15日の11日間、カナダ(バンクーバー)語学研修旅行に生徒9名が参加しました。カナダ人教師による英語のみの授業、現地高校生との交流、また食品仕分けなどのボランティア活動、チームビルディングなど数多くのアクティビティを体験しました。日本にいる時とは違い、異国の地で、英語だけでコミュニケーションを図った経験は、生徒たちに改めて大きな気付きをもたらし、海外や英語に対するさらに深い学びにつながる研修旅行となりました。

週末は、ホームステイ先のご家族と心温まるひと時を過ごしていました。

このような有意義な異文化体験ができたのは、関係者、また保護者の皆様のおかげです。ご協力に心より感謝申し上げます。





2017年度 とわの森三愛高校は、新たに5コース制に!

2017年春から、本校の学びは、大きく変わり、さらに充実します。実力を伸ばし、可能性を広げ、より高い進路目標をサポートする5つのコース編成、酪農学園大学との高大一貫教育による本校独自のカリキュラム。将来の夢を見つけ、自分を磨き、やりたいことに熱中することができます。3年間の学びや情熱、努力がその先の大きな未来につながる学校です。



獣 医・理数コース 30名

酪農学園大学獣医学類への学内進学(学力条件あり)ならびに、難関理系大学進学を目指します。理数系教科の3年間総単位数は43単位。1日7時間授業で土曜日も授業を実施。酪農学園大学との高大連携授業が多数用意され、生徒の探究心や知的好奇心を高めます。



総 合進学コース 特別進学クラス40名を含む160名

新たに「特別進学クラス」を設置し、学力に適した授業、難関大学進学を目指す授業を展開します。キャリアガイダンスや中国語、アグリトライ等、多種多様な選択科目で豊かな学びができます。また新科目「探究」を設定し、主体的に学び、行動・発信する力を伸ばします。



フードクリエイティブコース 30名

普通科カリキュラムの学習に加え、酪農学園の環境を存分に活かし、食料生産・食品加工・食品流通・販売実習など「食」と「農」の分野をトータルに学び、栄養や健康、食育について考えるコースです。



ト ップアスリート健康コース 指定クラブ限定40名

本校が指定する6つの運動部の生徒が対象のコースです。全国に通用する環境で競技力の向上を目指しつつ、将来の夢の実現のため、勉強にも全力投球できるコースです。

【指定クラブ】ソフトボール部・バドミントン部・男女ソフトテニス部・男子バレーボール部・サッカー部



機 農コース 全寮制40名

酪農の自営者育成はもとより、農業・乳業・食品・流通関連への就職、および農の現場を経験した上での大学進学など、幅広い進路を目指すコースです。全寮制(朝夕実習を含む)で、実学を通して、農業を基礎・基本から学びます。



通 信制課程(通学コース／通信コース)も併置しています。 ～一人ひとりを大切にする・・・信頼と実績～

2017年 入試に向けて

学校見学会・
各種入試相談会のご案内

- 学校見学会【9/10、10/15、11/12:いずれも本校にて9:30～12:00】
- 獣医・理数コース説明会【8/27:本校にて13:30～】
- 地区別学校説明会【9/11(旭川)、9/17(北見・函館)、9/24(苫小牧・釧路)、9/25(帯広)、10/30(岩見沢)】
- 関東地区入試相談会(予約制)【7/17・18、9/24、10/9・10・23、11/5・26、12/4:酪農学園東京オフィス】
- 関西地区入試相談会(予約制)【9/22(大阪)、10/22(神戸)、12/3(大阪)】

【本校公式webページURL】 <http://www.san-ai.ed.jp> お問い合わせは、広報入試部(TEL:011-388-4706)まで。



本気で農業 本気で遊ぶ!

地域土着型サークル「まんまる」が更別村で活動



(左から)葛西優さん(循環農学類 1年)、菅原桃香さん(副代表:循環農学類 3年)、井上絵里加さん(代表:獣医保健看護学類 3年)、大隅令門さん(循環農学類 2年)、武川桃佳さん(循環農学類 1年)

2015年に学生有志により発足した、地域土着型サークル「まんまる」は、「本気で農業 本気で遊ぶ!」をテーマに、地域の農業や人々と深く触れ合うサークルです。昨年は十勝の更別村に一軒家を借りて、8月14日から1カ月間、延べ9名が1〜4週間の集団生活を送りながら、農家での農業研修や地域イベントへの参加を行い、更別村の方々との強い絆を築きました。その様子や今後の活動について、サークル運営に携っている5名の組織メンバーに話を聞きました。

更別村の方たちの温かさがすばらしく、とても貴重な経験ができます!

代表
井上です!



「まんまる」の発足



北海道大学で「いなかっぺ」というサークルが仁木町で地域交流活動をしているのを知り、酪農学園大学でもやろうと、4名の組織メンバーが集まって立ち上げました。企画・立案から実施まで通年で活動する組織メンバーと、夏に交流活動に参加する参加メンバーがあり、昨年は合計9名でしたが、今年は現在まで15名が集まっています。

農業研修ができる場所を探していたところ、更別村の方々が積極的に支援してくださり、農家や役場の職員など12名で協議会を設立して、受け入れ体制を整えてくれました。

生活費や家賃、交通費などは、すべて農業研修でのアルバイト代で賄えます。

副代表
菅原です!



昨年、更別村で

空家となっている一軒家を1カ月間だけ借りて、そこで自炊しながら、週4日は農業研修をしました。じゃがいもやてん菜、豆類を栽培している畑作農家9軒で、主にじゃがいもの選別作業を行いました。作業は休憩が多くて疲れもなく、とても楽しく新鮮でした。残りの3日は、地域のさまざまなイベントに参加し、村の方々と交流しました。村の祭りに参加してみこしを担いで練り歩いたり、広尾町の十勝港まで連れて行ってもらい



鮭釣りをしたり、養蜂家を見学したりと、貴重な体験ができました。また、村の方々との懇親会を頻繁に行い、本当に仲良くなりました。帯広畜産大学から村を訪れていた学生たちとも交流し、大勢の人たちとのつながりができました。

企画から参加した方が楽しく、自分のスキルにもなると思い、組織メンバーになりました。

1年
葛西です!



これから!

昨年に築いたつながりを大切にして、今年も引き続き更別村で活動します。農業研修を週3日、イベント参加を4日にし、より本気で遊びます。イベントは参加者の希望を聞き、それに沿って企画したいと考えています。また、更別村から、地域の特産品を開発してほしいと要望を受けています。昨年作って好評だったじゃがいも館のどら焼きを改良した「じゃがいもたい焼き」や、紫色のいもの色を生かした「いももち」などを考えています。

特産品開発の担当です。今、いろいろなアイデアを吟味中です。

もう1年早く入学していれば、昨年も参加できたのにと残念です!

2年
大隅です!



1年
武川です!





獣医学共用試験に対応するため、臨床獣医学教育研究棟を新築

獣医学教育の質の向上・充実に向けた取組みとして、「現場の最前線で活躍できる高度な実践力を有する獣医師の養成」と「国際水準の獣医学教育の実現」が文部科学省から示されました。それを受けて、学生が参加型臨床実習を始める前に、知識や技能、態度などの到達レベルを公平かつ厳正に評価し、その質を動物所有者（飼い主）と社会に保証するための評価システム「獣医学共用試験」が2016年度から全国16獣医系大学で導入されることになりました。

獣医学共用試験は、コンピュータを用いた「知識および問題解決能力を評価する客観試験（vetCBT: veterinary Computer-based Testing）」と「獣医臨床における診察技能・態度を客観的に評価（vetOSCE: veterinary Objective Structured Clinical Examination）」より構成されています。

本学では、vetOSCEに対応する施設整備として、附属動物医療センター（旧・附属動物病院）本館の東側に、臨床獣医学教育研究棟を新築しました（3階建、面積2,141㎡、建物総面積10,841㎡）。

これまでの施設と合わせ、生産動物や伴侶動物の教育、研究、医療の拠点としての機能を持つ施設群であることを示すため、名称を附属動物病院から「附属動物医療センター」に変更しております。



組織紹介 【役職名・氏名】

（2016年4月1日現在）

学 長 竹花 一成
副 学 長 石原 智明
宗 教 主 任 榮 忍
農 食 環 境 学 群 長 荒木 和秋
獣 医 学 群 長 北澤多喜雄
酪 農 学 研 究 科 長 尾碕 亨
獣 医 学 研 究 科 長 田村 豊
循 環 農 学 類 長 高橋 圭二
食 と 健 康 学 類 長 竹田 保之
環 境 共 生 学 類 長 吉田 剛司
獣 医 学 類 長 及川 伸
獣 医 保 健 看 護 学 類 長 北澤多喜雄
教育センター
教育センター長 中出 哲也
教育センター教務担当部長 吉野 宣彦
教育センター教務担当次長 上野 岳史
教育センター教務担当次長 翁長 武紀
事務次長 照井 俊秀
教務1課長 漆原 滋
学 生 部
部 長 野 英二
次 長 岩崎 智仁
事務次長 照井 俊秀
学生課長 伊藤 明美

入 試 部
部 長 桐澤 力雄
次 長 吉田 磨
事務次長 林 多喜夫
入試課長 加藤 浩
就 職 部
部 長 金田 勇
次 長 保原 達
事務次長 十倉 宏
附属図書館
館 長 横田 博
副 館 長 白石 治恵
事務課長 廣田 政則
附属動物医療センター
センター長 山下 和人
副センター長 鈴木 一由
エクステンションセンター
所 長 高橋 俊彦
次 長 阿部 茂
次 長 樋口 豪紀
事務次長 関 浩一
生涯学習課長（出版担当） 塩出 真司
生涯学習課長 後藤 哲也
国際交流課長 高橋 直樹
教職センター
センター長 樋元 淳一

酪農学園フィールド教育研究センター
センター長 中辻 浩喜
副センター長 園田 高広
副センター長 泉 賢一
学 務 部
学務部長 伊藤 真美
研究支援担当部長 新 政文
事 務 局
局 長 田中 義則
次 長（総務担当） 廣岡 亨
兼 情報システム課長
総務課長 北山 陽
次 長（財務担当） 加福 幸枝
兼 高校事務部長
財務課長 岩井 繁和
管財課長 佐藤絵里子
施設課長 田口 俊哉
兼 高大寮務課長
農事課長 高橋 秀一
学園広報室課長 江口 祐子
東京オフィス所長 高澤 靖
三愛精神に基づく健土健民戦略本部
局 長 近 雅宜
兼 内部監査室長
戦略本部課長 中港 康裕

名誉教授の称号を授与

6月23日、本学において、竹花一成学長から以下の4名に、今年度の名誉教授の称号が授与されました。

清野 康二氏、林 正信氏、平賀 武夫氏、眞船 直樹氏



放牧酪農を引き継ぎ、 新たな商品の開発をめざす

北海道浜頓別町 池田牧場

牧場主 **池田 辰実** さん

酪農学園大学食品科学科 2006年卒

大学卒業と同時に実家で就農。放牧酪農を行うとともに、乳製品の製造に取り組む
JAひがし宗谷青年部長、北海道酪農青年女性会議(全国酪農業協同組合連合会)会長
<http://farm-ikeda.net/>

池田牧場の歩み

祖父の急死により農場を継いだ父が、経営改善に取り組む中で、1985(昭和60)年には草地酪農の本場ニュージーランド、オーストラリアで研修を受けて、放牧主体の酪農への移行を決意しました。その後、土壌分析に基づく土づくり、ペレニアルライグラスの導入など放牧に適した草づくり、足腰が強く寒冷地の寒さにも耐えられる牛群改良に取り組み、道北の浜頓別の風土に合わせた土・草・牛・人の自然サイクルを重視する放牧酪農のスタイルを確立しました。

「土・草・牛が健康で、安心でおいしい生乳を生産する」、
「経営を預かる家族も人間らしい生活を営む」が牧場の理念です。私は今年1月に経営移譲を受けて、3代目の経営主となりました。

経営概要

項 目	内 容
耕地面積 採草地 放牧地 兼用地 計	45ha(うち借地25ha) オーチャードグラス、チモシー 25ha ペレニアルライグラス、シロクロローバ 30ha 採草と乾乳牛の放牧 100ha
乳牛飼養頭数 うち搾乳頭数	82頭 ホルスタイン種、ブラウンスイス種 53頭 (注)2014年に新牛舎建築につき、増頭中
労働力	2.2~2.3人
生乳生産 年間出荷乳量 1頭当たり乳量 体細胞数 分娩間隔	350トン 8,000kg/年(乳検データ) 17万/ml 410日



放牧の特徴

- 牧区数29(平均0.8ha)で集約放牧、
1牧区当たり0.5~1日、半日放牧させて移動
- 放牧期間は5月中旬から11月上旬まで
- 配合飼料はミルクングパーラーで給与
- 季節分娩にし、夏(放牧)期間の分娩が少ない繁殖管理
- 牧草収穫は年2回



理想とする経営

就農して5年くらいは経営や人生プランについてあまり考えずにいました。いよいよ経営継承が近づいた頃、今の自分のままではやっていけないと感じ、やりたい経営、なりたい自分の姿を描き、その理想に近づくため、経営や放牧のことを教えてくれる人に会い、セミナーに参加するなど本格的に勉強を始めました。

酪農経営には様々なスタイルがありますが、私はゆとりある経営をめざしています。放牧主体なので作業は2人で回り、時間的にも経営面でもゆとりがあります。酪農家は土のプロ、草のプロ、牛のプロであり、同時に全体を統括するマネージャーです。放牧酪農は、土・草・牛のバランスが基本で、土、草、牛のレベルを上げれば、購入飼料を減らせるし、牛が健康になります。やりがいもあります。

牧場の発展に向けて、牛ができることは牛が行う飼いを実践するため、2014(平成26)年に牛舎を新築し、「放牧・つなぎ飼い」から「放牧・フリーストール・ミルクングパーラー」へ飼養管理を移行しました。



新商品の開発に取り組む

高校時代は酪農を継ぐのだろうと漠然と思っていましたが、両親が築いた放牧酪農をベースにプラスαになる乳製品の製造技術や知識を身につけようと、酪農学園大学の食品科学科に入学しました。

牧場では2004(平成16)年に乳製品製造工房を設置して、アイスクリームやミルクジャムを製造してきましたが、販売戦略や商売に対する姿勢などに課題があり、売り上げは今ひとつでした。売れないことには価値がないと思い、商業や経営のセミナーに参加し、商売や経営を行う諸先輩方に相談しました。その中で、今までの商品を見直して、新たに牛乳を使った冷凍スイーツの製造に取り組むことにしました。商品開発に当たって



は、大学で学んだ乳製品製造や食品衛生などの知識が役に立ちました。試作を重ね、今後は、パッケージや販売チャンネルを検討していきます。今年7月を目途に、主に土産物用として販売を開始する予定です。

商品が売れて、道北のことが知られるようになることで地域活性につながり、酪農業の可能性として就農したいという人が出てくればいいですね。

オフの過ごし方

いろいろな役職を引き受けています。暇だねと言う人もいますが、外に出ることで情報が入ってきます。外に出なければ、井の中の蛙になってしまいます。ただし、仕事に支障が出ないように、早起きをして仕事の段取りをして出かけるよう心がけています。

毎日何かしらのやることはあり、完全にオフの日はありませんが、週に1日はドライブをしたり、好きなことをして、頭をからっぽにする時間を持つようにしています。

後輩へのメッセージ

大学時代は札幌にもよく行って、様々な経験をしました。若いときほど、いろいろな場に出たほうがいいと思います。物事に無駄はなことはありません。自分がなりたい人をイメージして、そのために何をするかを考え、その実現に向けて必死で頑張ってください。酪農経営にしても、いろいろなやり方があり、若いときはやりたいようにやればいいと思います。型にはまる必要はありません。



2015年度決算の概要

2015年度決算が、去る5月27日開催の理事会にて承認されましたので、その概要をお知らせいたします。

学校法人会計の計算書類は、資金繰りを示す「資金収支計算書」、経営状況を示す「事業活動収支計算書」および財産状況を示す「貸借対照表」より成り、私立学校法第47条および学校法人会計基準第4条により定められた規則に基づき作成したものです。

資金収支計算書(概要)

<単位:千円>

(収入の部)		(支出の部)	
科 目	決算額	科 目	決算額
学生生徒等納付金収入	5,438,188	人件費支出	3,938,492
手数料収入	106,646	教育研究経費支出	2,146,167
寄付金収入	66,647	管理経費支出	689,586
補助金収入	1,015,503	借入金等利息支出	5,207
資産売却収入	2,537	借入金等返済支出	134,100
付随事業・収益事業収入	1,050,719	施設関係支出	1,086,767
受取利息・配当金収入	110,886	設備関係支出	417,702
雑収入	263,800	資産運用支出	35,700
借入金等収入	34,400	その他の支出	1,420,175
前受金収入	786,298	資金支出調整勘定	△452,332
その他の収入	398,906	翌年度繰越支払資金	3,382,558
資金収入調整勘定	△1,006,922		
前年度繰越支払資金	4,536,514		
収入の部合計	12,804,122	支出の部合計	12,804,122

事業活動収支計算書(概要)

<単位:千円>

教育活動収支	収入の部	科 目	決算額
		学生生徒等納付金	5,438,188
		手数料	106,646
		寄付金	63,713
		経常費等補助金	996,687
		付随事業収入	1,050,719
		雑収入	264,444
	教育活動収入計	7,920,400	
	支出の部	人件費	3,902,100
		教育研究経費	3,026,941
管理経費		794,468	
徴収不能額等		1,482	
教育活動支出計		7,724,991	
教育活動収支差額		195,409	
教育活動外収支	の収入	110,885	
	受取利息・配当金	110,885	
	教育活動外収入計	110,885	
	の支出	5,207	
	借入金等利息	5,207	
教育活動外支出計	5,207		
教育活動外収支差額		105,678	
経常収支差額		301,087	
特別収支	の収入	1,909	
	資産売却差額	28,594	
	その他の特別収入	30,503	
	特別収入計	26,641	
	資産処分差額	531	
	その他の特別支出	27,172	
	特別支出計	27,172	
特別収支差額		3,331	
基本金組入前当年度収支差額		304,418	
基本金組入額合計		△2,071,547	
当年度収支差額		△1,767,129	
前年度繰越収支差額		△4,937,260	
翌年度繰越収支差額		△6,704,389	
(参考)			
事業活動収入計		8,061,788	
事業活動支出計		7,757,370	

貸借対照表(概要)

<単位:千円>

(資産の部)		(負債及び純資産の部)	
科 目	2015年度末	科 目	2015年度末
固定資産	31,932,916	固定負債	1,796,469
有形固定資産	19,960,052	流動負債	1,449,688
特定資産	11,917,420	負債の部合計	3,246,157
その他の固定資産	55,444	基本金	39,116,458
流動資産	3,725,309	繰越収支差額	△6,704,390
		純資産の部合計	32,412,068
資産の部合計	35,658,225	負債及び純資産の部合計	35,658,225

酪農育英会だより

皆様には、常日頃より本育英会に対し、ご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

2015年度の事業報告及び2016年度の事業計画は次のとおりです。

2015年度事業報告

1. 奨学金貸与事業：26名に対し、総額12,480,000円を貸与した。

内 訳	予 算		決 算		差 異	
	人数	(千円)	人数	(千円)	人数	(千円)
大 学	32	15,360	26	12,480	6	2,880
大 学 院	1	600	0	0	1	600
高等学校	2	480	0	0	2	480
計	35	16,440	26	12,480	9	3,960

2. 奨学金給与事業：17名に対し、総額4,320,000円を給与した。

内 訳		予 算		決 算		差 異	
		人数	(千円)	人数	(千円)	人数	(千円)
私 費 留学生	大 学	1	480	1	480	0	0
	大学院	4	2,400	4	2,400	0	0
高 等 学 校		15	1,800	12	1,440	3	360
邦人留学生		1	480	0	0	1	480
計		21	5,160	17	4,320	4	840

3. 酪農研究奨励金交付事業

団体1、個人1名に対し総額600,000円を交付した。

●日本酪農青年研究連盟(日本酪農研究会) 300,000円

第67回日本酪農研究会における最優秀賞(黒澤賞)の副賞(酪農育英金)等として交付した。

●酪農学園内の40歳未満の教職員

獣医学群獣医学類 内田 玲麻 助教 300,000円

『北海道のエゾシカにおける節足動物媒介性ウイルスを対象とした人獣共通感染症の疫学調査』

4. 『酪農育英会だより』の発行

2015年12月に『酪農育英会だより』を発行し、関係各位に配布した。

2016年度事業計画

1. 奨学金貸与事業：30名に対し、総額14,040,000円を貸与する。(公1事業)

・大学27名12,960,000円、大学院1名600,000円、高校2名480,000円

2. 奨学金給与事業：18名に対し、総額4,800,000円を給与する。(公1事業)

・(外国人私費留学生)大学2名960,000円、大学院4名2,400,000円
(高等学校)12名1,440,000円

3. 研究奨励金交付事業：1個人に対し300,000円を交付する。(公2事業)

・酪農学園内の40歳未満の教職員 300,000円

4. 研究奨励金交付事業：1団体に対し総額300,000円を交付する。(その他の事業)

・日本酪農青年研究連盟(日本酪農研究会) 300,000円

5. 『酪農育英会だより』2016年度版の発行を行う。

寄付金(2015年度)

多くの方からご支援を賜り誠にありがとうございました。



同窓会からのお知らせ

◆熊本地震のお見舞いについて◆

酪農学園同窓会 会長 小山久一
同九州地区 会長 古賀友英

熊本・大分地方は現在も余震が続き、熊本県支部長はじめ多くの本学同窓生がいまだに不安と被害の中にあることに對し、心よりお見舞い申し上げます。

酪農学園同窓会では九州地区事務局を中心に、熊本県支部同窓生265名と大分県等近隣県被害者の安否確認や被害状況の調査を進めております。

同窓生の皆様で友人、知人の安否情報等をお持ちの方は、同窓会までお知らせいただければ幸いです。この地震が一日も早く小康状態になり、これ以上被害が拡大しないことを心から願っております。

***別添により義援募金案内を同封しましたので、皆様のご協力を
お願い申し上げます。**

◆2016年度ホームカミングデーのご案内◆

第25回を数えるホームカミングデーを、黒澤記念講堂および同窓生会館前庭を会場として開催します(雨天決行)。

例年通り、野外バーベキューランチ(本学で肥育された日本短角牛や本学の牛乳をご賞味いただきます)、物故者の記念礼拝、同窓生による記念講演が行われます。お誘い合わせの上、ご参加ください。

なお、この機会にあわせて、同期会やOB会の開催をご検討願います。

記

開催日時：2016年9月17日(土)

■ 昼食会：11:00～12:30

同窓生会館前庭でのバーベキューランチ(会費1,000円)

■ 記念礼拝：物故者追悼礼拝含む 13:30～14:00

■ 記念講演：講師 大橋 厳太氏(食科2期) 14:00～15:00

詳細は後日、同窓会HPで告知します。

*なお、同期会や部活、研究室等での同窓会開催を計画される場合は、幹事の方々はお手数ですが助成金申請を含めて同窓会事務局までご一報願います。

◆同窓会専用返信はがきと利用方法◆

同窓会では、「受取人払郵便はがき」を作成しています。

地区支部同窓会の総会案内や同期会、クラス会等各種同窓会の返信用にご利用いただくことが可能です。

「学園だより」に1枚同封されておりますので、住所変更等にもご利用願います。

同窓会等開催のお知らせ

- 7月23日(土) 関東甲信越地区東京都支部総会
- 7月30日(土) 関東甲信越地区新潟県支部総会
- 7月31日(日) 酪小獣「麦の会」総会・研修会
- 7月31日(日) 酪小獣東北総会・研修会
- 8月6日(土) 緑風会(教員OB会)中央研修会
- 8月6日(土) 九州地区連合同窓会
- 8月6日(土) 松井幸夫先生を偲ぶ会
- 8月7日(日) 短大Ⅱコース1期同期会
- 9月17日(土) 酪農学園ホームカミングデー

(詳細はHPを参照ください)

九州地区連合同窓会のお知らせ

日 時：2016年8月6日(土) 午後5時00分～

会 場：「ホテル メリージュ(鳳凰)」

宮崎市橘通3丁目1-11 TEL:0985-26-8992

開 会／会長挨拶、来賓祝辞

講演会／講師：谷山弘行教授(獣医学群獣医学類)

演題：「酪農学園の改革と近況」

記念撮影・懇談会／会員(卒業生)：8,000円(写真代含む)

同伴者：6,000円(小学生以下無料)

連絡先：0983-27-5907(事務局 小嶋 聖)

出欠は個別にお送りする返信用はがきに記載し投函ください。

九州地区連合同窓会 会 長 古賀 友英
副会長 樺木野 昂

(宮崎県会長) 藤本幸雄	(熊本県会長) 藤崎英廣
(佐賀県会長) 八谷直見	(沖縄県会長) 田中巧一
(鹿児島県会長) 竹中勝雄	(大分県会長) 北村裕和
(長崎県会長) 松崎秀保	

(詳細は同窓会HPでご確認ください)

松井幸夫先生を偲ぶ会のお知らせ

日 時：2016年8月6日(土) 午後4時00分～

会 場：「新さっぽろアークシティホテル」

札幌市厚別区厚別中央2条5丁目6番2号

TEL：011-890-2525

内 容：追悼式・思い出を語る会

会 費：8,000円

連絡先：011-388-4796(環境微生物学研究室 岡本 英竜)

出席ご希望の方は、同封されている「受取人払郵便はがき」に「8月6日」「松井先生を偲ぶ会」と明記し投函ください。

発起人代表 仙北 富志和

お知らせとお願い

住所変更された同窓生の方は、下記のいずれかの方法で、同窓会事務局までご連絡ください。

- TEL：011-386-1196
- FAX：011-386-5987
- e-mail：rg-dosok@rakuno.ac.jp
- 〒069-8501 江別市文京台緑町582
酪農学園同窓会事務局
- URL: <http://rakuno.org/> ご覧ください。



